



上は開場を待つ多くのお客さま。下は受付付近



会場となった東京美術倶楽部

第26回「大刀剣市」を顧みる

NEWS, TOPICS, INFORMATION, OPINION & EDITORIAL



世界中の刀剣・刀装具・甲冑・武具の愛好家が注目する第26回「大刀剣市」が十月二十五日から二十七日までの三日間、東京新橋の東京美術倶楽部で開催されました。

今回は、北は北海道札幌市から南は九州熊本市まで、全国各地から七十四店舗の組合員が出店され、また公益財団法人日本美術刀剣保存協会の第一回全国大会が京王プラザホテルで行われる相乗効果も相まって、かなりの来場者数が予想されました。天気予報では中三日二十六日の台風直撃も危惧されましたが、それでも三日間で約三千人のお客さまが来場されました。大刀剣市は、理事はもちろんのこと、組合員の中から理事長名で優秀な実行委員が委嘱され、実行委員会を立ち上げます。

七月初旬、産経新聞社・フジサンケイビジネスアイ両社への後援依頼から始まり、カタログに掲載するための商品集荷・撮影、ブース割付けやカタログ

編集作業、また海外からのお客さまのための英文解説作成、広報活動など、さまざまな準備をして、当日を迎えました。

同時開催の三階重文室における特別展では、NHKの大河ドラマ「八重の桜」にちなんで、「幕末を彩る刀工達」と題し、重文室担当役員が幕末期の名品優品を展示し、来場客から大好評を得ました。

また四階会場では、これも恒例となったが、全日本刀匠会所属の刀匠が銘切り実演や小品の展示を通してお客さまとの交流を図っていました。今後も現代刀匠の皆さまには来場者の要望に応えるイベントを企画していただけることと思います。

大刀剣市の目玉企画として人気の「我が家のお宝鑑定」は、今回「毎日午後から無料評価・鑑定・買入れ相談を承ります」と広報したこともあり、三日間で延べ百組近い依頼がありました。お待ち願う時間が少々長い方もありましたが、理事が二人一組で必死で鑑定に当たり、すべての依頼に応えることができました。

四階には食堂スペースを用意

2014.1.15 VOL.15 特別号

発行人 深海 信彦
 発行所 全国刀剣商業協同組合 編集委員会
 〒169-0072 東京都新宿区大久保2-18-10
 新宿スカイプラザ1302
 TEL:03(3205)0601 FAX:03(3205)0089
 http://www.zentosho.com

第15号編集担当
 赤荻 稔 飯田 慶久 伊波 賢一
 大西 芳生 大平 将広 嶋田 伸夫
 清水 儀孝 生野 正 川島 貴敏
 網取 謙一 服部 暁治 新堀 賀将
 宮澤 琢 冥賀 吉也 藤岡 弘之
 松本 義行

し、今回からお弁当の種類を増やしましたが、初日はお弁当の数が足りず、ご迷惑をおかけしました。

産経新聞社が呼びかける、心臓病などの難病に苦しむ子供を救うための「明美ちゃん基金」には初回から協賛していただきました。今回も出店者、組合員、ならびに内外からご来場くださったお客さまより善意を頂きまして、十一月二十九日に産経新聞社を訪ね、浄財三十一万円を寄付してまいりました。

本年度はカタログを四千二百部発行しましたが、完売状態でした。日刀保の全国大会と時を同じくしたことで、アベノミクスがじわりじわりと効果を現し、またドル・ユーロ高が相まって相乗効果が生まれたことを感じた今回の大刀剣市でした。



11月29日、産経新聞社を訪問し、「大刀剣市」にてお客さまや出店者から寄せられた浄財31万円を託した。右は同社・関田伸雄事業部長。左から伊波常務理事・大平理事・服部常務理事・冥賀副理事長

私見であり、夢でもありますが、年に一日、日本刀の記念日があって、官民一体となって美術刀剣普及の活動ができる時代が来たらいいと思います。

お客さまにとっても出店者にとってもより良い大刀剣市にするために、次回は出店者の事前顔合わせ説明会を開く予定です。また、出店者にはアンケートをお願いしましたが、結果を踏まえて、希望に添えるよう実行委員会一同、一層の努力をいたしてまいります。

なお、今回は十一月一日〜三日、同じく東京美術倶楽部で開催の予定です。組合員の皆さま、また「刀剣界」購読者の皆さま、本年も変わらぬご支援をお願い申し上げます。

(大刀剣市 実行委員長・清水儀孝)

刀剣・書画・骨董

和敬堂

土肥豊久・土肥富康

〒940-0088 新潟県長岡市柏町1-2-16
 TEL 0258-33-8510
 FAX 0258-33-8511

http://wakeidou.com/

美術刀剣・刀装小道具商

やしま

齋藤雅稔・隆久・隆洋

刀装小道具通信販売目録「やしま」
 年間10回位発行予定
 購読料10回 2,000円 (郵便切手可)

〒202-0022 西東京市柳沢6-8-10
 TEL 042-463-5310
 FAX 042-463-7955

金工・刀身彫刻・修理・諸工作一式

柳匠堂

柳村宗寿

岡山市北区平和町二一八
 TEL 〇八六二二二二二二二
 工房 岡山市北区磨屋町七二二
 TEL 〇八六二二二二二二二
 FAX 〇八六二二二二二二二

刀剣古美術

三峯美術店

町田久雄

埼玉県秩父市野坂町一十六六一
 西武秩父駅連絡通路町久ビル内
 TEL 〇四九四二二二二二二
 FAX 〇四九四二二二二二二

美術刀剣、小道具、武具類の
 売買、加工及び御相談承ります

大阪刀剣会

吉井唯夫

大阪市中央区日本橋二一七一
 TEL 〇六一六六三一二二二〇
 FAX 〇六一六六四四一五四六四



鑑賞の所作はさすが慣れたもの



刀匠とのコミュニケーションも弾む



展示品に真剣に見入る。眼鏡にかなう商品は？

「大刀剣市」売上向上のためのワンポイント

昨年の「大刀剣市」には、三日間で延べ三千人のお客さまが国内はもとより、アメリカ・ヨーロッパ・アフリカ・東南アジア・オーストラリアなど世界中から、ご自分の探している刀剣および刀装具を求めておいでいただきました。

美術品を商うには最高の場所である東京美術倶楽部の同じ屋根の下で、七十四店舗が出店し、三日間という短期決戦の中でいかにして自社の商品をアピールし、お買い求めいただくかが、勝負の分水嶺でありました。

過日行われた反省会の席上、ぜひとも役に立つ「ワンポイント」を聞かせてほしいという声が多くありました。そこで組合として出店者各位に、秘訣とも言うべきワンポイントをお願いしたところ、多くの方々から数多くのアドバイスが集まりました。

最初に匿名希望の寄稿のものをテーマ(要素)別にご紹介し、後半では署名でのご意見を紹介させていただきます。

一、展示に関して

①昔は一つの刀掛けに三振、しかも所狭しと思えるほど展示して大失敗した。今は数を減らし、すっきりとした展示に切り替えている。ゆっくりと見てもらっているようだ。

②どんな名品を展示しても、目立たないところでは気づいてもらえない。自分の店で一番自信のある商品は、一番目立つ真ん中に展示することを心がけている。

③小道具類はばらばらに展示するのでなく、肥後鐺は肥後鐺、赤坂鐺は赤坂鐺と整理して展示している。また毎年、必ず離れ縁や小刀を専門に買いに見えるお客さまがいる。そのような特別なお客さまに対しては、商品を展示することなく、お取り置きをしておくこと大変喜ばれ、必ず何点かお付き合いたいと思っている。

④ブースが狭いので、多く展示できません。展示できない商品は、一覽表を作って配っており、興味のある方は大刀剣市後でも電話があり、商談成立し、たことが何度もあります。

⑤名品は飾りません。他の店にたくさん展示されているので、うちでは五十万円以下の商品で勝負しています。気軽に手に取って見てもらえるよう心がけています。

⑥外国では必ず「アンダーテーブル商品」と言って、展示していない商品を用意してあります。展示していない商品を特別に見たがるお客はどこにもいません。大切なお客さまにご覧に入れると、喜ばれます。

⑦プライスカードで昔、単位を万円で表示し失敗しました。外国人にはわかりませんので、今では¥マークで表示しています。また、最近では外国人が大勢来ていたので、同時に\$表示もしています。

⑧今回、現代刀や綾杉肌の刀が売れたとか、甲冑類が人気があったとか、鐺類は肥後物が人気があった等々の話題があっても、次回同様な商品が売れるとは限らない。これは、今年の農作物で白菜に高値がついたから来年は云々の話ともよく似ている。売れ筋商品の情報を上手に把握して、周到な準備をすることも必要だ。

⑨大刀剣市開催期間中、必ず他店

舗の展示方法などを見に行くことにしている。参考になることがたくさんある。

⑩商品とプライスカードがはきりわかることが肝要である。

⑪大刀剣市に展不する商品は、間近になってからそろえるのは難しい。数カ月前から準備するよう心がけている。

⑫ 図録に関して

⑬ 必ず追加ページを依頼して四〜五ページ確保している。なぜなら、掲載した商品は大刀剣市後でも問い合わせがあるので、問い合わせがたい。ただし、掲載品はかなりの吟味して選ばなくてはならない。図録に掲載したからといって、必ず売れるものでもない。問い合わせゼロのときもあった。かといって、一度に多くの問い合わせのある商品もある。掲載商品の決定には十分時間をかけ、準備する必要がある。

⑭ 独自のPR活動について

⑮ 過去、大刀剣市でお買い上げいただいたお客さまには、図録かハガキを必ずお送りしている。特に図録をお送りしたお客さまの大半は挨拶に来てくださる。毎年の積み重ねが重要なことだ。お歳暮代わりと思えば、図録代など安いものだ。

の店では知り合いの方に頼んで四人でがんばっています。

⑯ 外国人相手に値段交渉、カードでの支払い、商品の発送等々、言葉が通じないと不便なことが多いです。私の店では、英語の話せる知人に応援してもらっています。

⑰ 購入者のペルソナ(仮定の顧客)を想定し、出品・展示品のターゲットを絞る。展示スペースが限られているので、事前に厳選する。

⑱ できるだけ整然ときれいに展示。清潔感を醸し出す。特にクロスシワはNG、良い品には見えない。ショーケースのガラスは再度きれいに磨く。

⑳ 実は購入者はネットの普及で、価格にはより詳しくなっており、実勢価格から大きく逸脱した価格設定では売れない。

㉑ 弊社が例年良い成績なのは、プライス表示にこだわっている点だと思えます。番号制にして、来場者が見たい商品を番号で指示していただき、利便性を高めています。常に「お客さまの視点」で考えているところです。

㉒ 図録掲載品は特に絞り込みが必要と思えます。当店イチオシの商品にする。

㉓ 弊社売上に占めるインターネット関連の割合は七〇%以上を占めており、事前の告知には最大の効果のあるインフラ・ツールと考えています。DMおよび各社独自の紙媒体でのお得意さまへのご案内なども売上向上につながります。(ネット告知は現在一ページ二万円となっていますが、少なくとも図録掲載一〜五ページ分は無料にされたい

かです。それはネットの不得意な参加者への気配りだと思えます)

㉔ お客さまは決して見た目で勝手に判断しないことです。お金持ちほど質素な格好で来られるケースが多く、どなたさまにも公平に、しかもできるだけ丁寧な言葉遣いを心がけています。大刀剣市は今やよりオフィシャルな存在となっており、遠路世界から来られているわけですから、「日本人の精神世界」を商いとすわれわれ刀剣商は、オモテナシの心で接するよう努力しましょう。

㉕ 全国刀剣商業協同組合でフェイスブックを発信してみたいかかでしょうか。連絡ツールとしても有効ですし、商品の紹介も可能となります。スマホの普及で有効な手段と考えます。

㉖ 古美術やしま・齋藤隆久

㉗ 出品内容・展示方法・プライスとその表示については、常に努力したいと思えますが、なかなか思うようには行かないものです。品物が一点限りのものでなければ、本当にいいのですが...

㉘ 八月二十九日の編集会議に出席しました。担当編集者の努力に感謝しています。図録は、お数寄者の皆さまも楽しみにしているようで、毎年発行配布される以前から発送予約の確認などの連絡がありますので、対応しています。

㉙ 独自のPRはほとんど行っておりません。インターネットは使っておりません。前に図録送付希望のありました外国のお客さまには、DMハガキと入場券を同封し郵送しています。独自の在庫表は、相場変動の理由から作成配布していません(当方で作成しているカタログシートの品は、常に流動しています)。

㉚ 独自のPRはほとんど行っておりません。インターネットは使っておりません。前に図録送付希望のありました外国のお客さまには、DMハガキと入場券を同封し郵送しています。独自の在庫表は、相場変動の理由から作成配布していません(当方で作成しているカタログシートの品は、常に流動しています)。

刀 剣 界

「我が家のお宝鑑定」に参加して

第二十六回「大刀剣市」の事業として、「我が家のお宝鑑定」が開催された。平成七年に第一回が開催されてから、今年で十八回目である。

大型台風の影響が予報され、心配したが、幸運にもそれて事なきを得た。

今回の実施は会期に合わせ三日間、昼の十二時から四時までとされた。

鑑定は例年通り組合理事十六名全員が担当し、二人一組となり時間を決めて分拍した。ほかに受付一名、鑑定補助員一名の計十八名態勢である。

私は出店していなかったので、当番の時以外でも全日会場に詰め、諸事手伝うことになった。鑑定会には初参加で、これまでの歴史や流れを体験していないので、多少の緊張や不安もあった。

会期中の受付件数は、初日

三十、二日目二十三、三日目四十二で、総計九十五件であった。ちなみに最近三年間の受付件数は、九十八、九十九、九十五と推移している。ただ、毎年十件前後は申し込んでも、待ち時間が長いので待ちきれず、帰ってしまうとのこと。これは現状では難しいが、改善の余地があるのではないかと思う。

さて、やっと順番が回ってきた依頼者もさまざまである。一族四人も来た方、夫婦で来た方、一人の方、皆真剣に、また神妙に質問してくる。

私が担当のときも名刀あり、それなりの物ありであった。皆さんが知りたいのは、お宝の製作年代だったり、美術的価値だったりさまざまだが、結局のところ金銭的価値が圧倒的多数ではある。ありがたいことに、全刀商を信頼して来たという方がほとんどであった。

「大刀剣市」に参加して

「今年は台風らしいね」

毎年参加し、慣れているはずの私も、正直、不安を感じざるを得ない。季節外れの台風が直撃するとうとう十月二十五〜二十七日の三日間、一年で一番大きい刀剣業界のイベント「大刀剣市」が開催されました。

言うまでもなく、ここ数年の日本の気候は温暖化の影響もあるのか、異常とも言つべき状態で、夏はどことなく暑い、雨はひたすら降る、大型台風が何度も上陸する、安定した季節のはずの秋に、多分な気象リスク。懸

念を感じざるを得ない状況ではあります。

しかしながら、結果としてみれば、風雨に見舞われたのは二日目の午前のみくらいで、初日は小雨程度、二日目午後から三日目も特に影響を受けなかったのは、誠に幸いでした。

特に今年は、公益財団法人日本美術刀剣保存協会の全国大会などと日程的に重なった行事があったことで、全国各地から刀剣愛好家・有識者のご来場をいただけた一面もありました。どのブースも途切れることのない

どであった。私たちも全刀商の看板を背負っている以上、うかつなことは言えない。絶えず言葉を選んで対応することを心がけたつもりだ。

「大刀剣市」見学記

愛刀家にとって待ちに待ったイベント、全国の刀剣商が集合し、展示即売する「大刀剣市」が十月二十五〜二十七日、東京美術倶楽部で開催された。今回は日刀保の全国大会とシンワアートのオークションが重なり、小生にとっては大変充実した三日間であった。

あいにくの台風接近とのことだったが、当方は二十六日、二十七日の両日、会場に足を運んだ。

普段なかなかお目にかかれなような名刀から、小遣いをやりくりすれば何とか購入できそうなものまでがずらりと並び、

お客さまの対応に大わらわ、活気があり盛況でした。また、今年外国からのお客さまの来場が特に多かったことも印象的でした。

大刀剣市の意義については、出店者の商売が第一ですが、そのほか組合活動の一環として、刀剣全般の啓蒙活動やチャリティーなども含め、さまざまな側面があると思います。

私が思う大刀剣市の良いところは、ご近所さんの感覚で三日間を過ごせることです。普段は離れた町で営業しているのに、このときばかりは「おはようございます」「今日もがんば

この催しをどこで知ったか、については、新聞が一番多く、次がインターネットであった。いずれにしても、この事業に参加して疲労感があったが、想像した以上に充実感があったのも事実である。改善すべきところは速やかに改善し、さらなるステップアップを図ってほしいと思います。(赤荻 稔)

なかなか好みに合うものがない。疲れたので食堂で一息入れていると、大阪と静岡の友人・知己より声がかかる。古刀のいい短刀があるから、見に行こうと。さすがに自玉の新藤五・保昌は結構の一語に尽きる。このような名品を手にとって拝見できるのがある。

絵画など違い、刀剣や刀装具、陶磁器などは手に取った感触が大事で、博物館でのウインドー越しではなかなかわからないのが困る。ただし、拝見時のマナーが大切で、作法を守って拝見することがぜひとも必要。

そこで提案があるのだが、大刀剣市で拝見するときのマナー講座を来場者に実地に見学してもらいしょうか。

「明日もよろしくお願ひします」など言葉掛け合います。

文房具の貸し借りに始まり、食事時の店番を頼んだり、時には人手不足の他店の展示手伝いまでも。外国語の得意な出店者は、ほかのブースの通訳や価格交渉に引っぱりだこ。そんな様子は、古き良き時代の連帯感や情さを感じられて、何だか温かい気持ちになります。この感覚は大刀剣市以外では、なかなか得がたいものではないでしょうか。

自分のお店の売り上げが一

もらうのはどうだろうか。お手入れも含めて会場で実現すれば、初心者にもありがたいし、刀剣商にとってもいいと思いますが、いかがでしょうか。ご検討ください。

そのほか、重文室の特別展も毎回テーマを持った展示で、勉強になった。ただし、もう少し初心者向けの一般的な解説が欲しい。例えば、湧出来と匂出来の違い、無地肌と肌物などを、現物展示で提示してもらおうと理解しやすいのでは。

女性ファンを増やす方法は何があるか？ これも重要な課題である。

現在の文化活動は、女性で成り立っていると言っても過言ではない。美術館、博物館、コンサートホールなど、ほとんど女性客でもっている状況を考えてほしい。例えば、女性入場料半額はいかが？ 袴と装剣小道具のみの特別展示などはいかがでしょうか。

また、一昨年実施したチャリティーオークションは大変楽しかった(ただし、知らない人も多かった)。もう少し告知

「大刀剣市」を終えて

—感動と感謝—

刀剣業界の年に一度のビッグイベントである「大刀剣市」が、大盛況のうちに幕を閉じました。私にとって大刀剣市への出店は初めての経験ですが、祖父の代に大刀剣市発足時のお手伝いをしたことがあり、頂いた表彰状は今でもお店に飾って

を)。毎年実施できませんか？ 安い小道具からある程度いい物まで出れば、素人でも熱くなれると思うのですが、いかがでしょうか。ご検討ください。

当方のような団塊の世代は幼少時、チャンバラで育ちました。元々刀にはあこがれを持っており、いつかは持ってみたいと思っていました。ただし、あの程度経済力もないと、買えません。実業家や政治家に刀剣・小道具に興味のある人も少なくはなく、こういった人々を取り込むことも必要かと考えます。

以上、勝手なことを書きましたが、刀剣界全体の課題はたくさんあり、やはり新規の初心者をおいかにして取り込み、買っていただくかにつきると思います。来年も魅力ある商品を用意するよう、切に願ひします。

最後に、探していた金覆輪のある金工鐔がこの大刀剣市で見つかり、無事打刀拵に収まり、刀掛けに飾ることができました。やはり大刀剣市のおかげです。ありがとうございました。

(東京都・平田泰雄)

個人的にさまざまな思いの、ぜひ一筆書かせていただきたいことがあります。それは「感謝」です。

大刀剣市実行委員の皆さま、そして開場前に列を成してまで、意中の品を他の愛好家より

先に手中に収めようとの熱意を持ってきた皆さんの来場者との出会いに感謝申し上げます。

われわれ刀剣商の基本精神である歴史と文化の保存と継承が、このような皆さんの愛好家の皆さまのおかげがあってこそ成り立っている現実を肌で感じた経験は「感動」の一言でした。

特筆すべきは、無言の中にも雄弁に語りかけてくる日本の文化財を、国籍や言語を問わず理解し、また理解しようとする苦心している海外愛好家の姿勢です。

また美術品としての側面だけではなく、武士の魂としての日本刀を通じて、わが国の武士道精神に感嘆し、学ぼうとする海外愛好家の礼儀正しさにも驚かされ、このように海外からも評価されている日本の文化を正しく継承するために一層層力を入れたいと決意を新たにしたいと、大剣市に参加させていたいただいたからです。

今回、大剣市の感想を書く機会をいただいたのですが、感謝文のようになってしまいました。実行委員の皆さま、そして日本各地、世界各国よりご来場くださった方々、素敵な出会いをありがとうございました。(玉山名史刀・玉山真敏)

「大剣市」反省会

十一月十七日午後六時より、芝パークホテルにおいて「大剣市」反省会が実行委員を集めて開催されました。

議題は、①出店申込書・図録掲載申込書について、②出店ブース設置について、③お宝鑑定について、④重文室特別展について、⑤セキリティーについて、⑥出店要項・規約の厳守について、⑦実行委員会役割分担について、⑧その他、です。各テーマとも忌憚のない意見が提出されましたが、それらを要約して紹介します。

まず出店申込書・図録掲載申込書の件は、出店要項・規約の厳守とも関係しますが、出店者の皆さまには各申込書の内容をよく読んで、把握していただきたいということです。図録に掲載する店名・電話番号などを正確に書いていただきたい。携帯電話は掲載するの、それとも連絡用なのか、ハッキリさせていただきたい。また、図録掲載申込書には写真のレイアウトを丁寧に書いていただきたいという意見が出ました。

ほかに、英文の出品解説は組合のホームページ上で作成し、ダウンロードできるようにしてはどうかという意見があり、これは十分実現できるものだとのことです。

特別展については、従来、予算を取らず、特定の方たちの縁故に頼り、無償で作品を借りていたのですが、少しは予算をつけた方がいいだろうという意見が出ました。セキリティーについては、予算を多少かけても強化すべきという結論です。

出店要項・規約の厳守では、現状では出店料と図録代を別々に集めていますが、一枚にまとめ、出店料請求時に図録代も一緒に請求してはどうかとの意見があり、実行委・事務局とも賛成なので進めることになりました。

最後に深海理事長から、本日の総括とともに、「準備を含めれば四日間を共にする七十数名の出店者が、初日の朝礼で初めて顔を合わせるのではなく、事前に集まり、注意事項の確認・打ち合わせが行えるようにしたい。次回からは必ず実現しましょう」との表明があり、一同拍手のうち反省会は終了しました。(持田員宏)



視点・論点

昨年六月、ユネスコ(国際連合教育科学文化機関)の世界文化遺産に「富士山」信仰の対象と芸術の源泉が、十二月には同じくユネスコの世界文化遺産に「和食」日本人の伝統的な食文化」が登録された。さらに今年には「富岡製糸場と絹産業遺産群」が、来年は「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」がそれぞれ世界文化遺産登録を目指している。ここに「世界文化遺産」と「無形文化遺産」という二つの異なる概念が登場する。誤解を避けるため、違いに触れておこう。

「たたら・日本刀」の無形文化遺産登録を

一九七二年、ユネスコ総会で採択された「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」(世界遺産条約)に基づき「一覧表に記載(登録)された遺産・景観・自然など、人類が共有すべき「顕著な普遍的価値」を持つ資産を世界遺産と言う。それは自然遺産と文化遺産、自然と文化の要素を融合した複合遺産に三分される。

わが国では九二年に同条約を締結、翌年、「法隆寺地域の仏教建造物」と「姫路城」の二件が文化遺産として、「白神山」と「屋久島」の二件が自然遺産として初めて「一覧表」に記載された。現在までの登録件数は十三だが、複合遺産はない。

これに対して無形文化遺産は、二〇〇三年に採択された「無形文化遺産の保護に関する条約」(無形文化遺産条約)に基づき、「人類の無形文化遺産の代表的な一覧表」ならびに「緊急に保護する必要がある無形文化遺産の一覧表」への記載と、これらの保護を定めたものである。

世界遺産が主に視認できる有形のハードウェア・不動産であるのに対して、無形文化遺産はソフトウェア、慣習や表現や知識・技能など広義の文化を対象とするとも言える。

わが国では文化財保護法を明確な根拠として、有形文化財・無形文化財・民俗文化財・埋蔵文化財など、「文化財」の概念が浸透している。しかるにユネスコの諸条約が「財」(property)ではなく、あえて「遺産」(heritage)としたのは、「人類の(無形文化)遺産の保護に対する普遍的な意思と共通の関心」(無形文化遺産条約前文)を持って未来の世代に伝えていくというところであろう。これは、日本人にとっても得心がい。

そこで、提案をしたい。「たたら・日本刀」を無

形文化遺産へ、と。たたらは古来独特の砂鉄製錬法であり、今やその価値が世界的に認知されつつある日本刀は、もっぱら和鉄を原料として製作されてきた。「たたら・日本刀」は、日本刀をシンボルとする和鉄文化と言ってもよい(現在、ほかに和鉄の使用例はない)。

人間国宝の死没により、日本刀も刀剣研磨も既に重要無形文化財の指定を解除されている。わが業界が口火を切って、無形文化遺産登録への道筋をつけることにはいかかであろうか。世界遺産では地方公共団体からの提案を公募しており、和食申請のきっかけは京都の料理人たちの提案であったという。その一石が「たたら・日本刀」にも欲しい。

(十子民夫)

わが国では〇四年に締結、本条約発効前にユネスコが実施していた「人類の口承及び無形遺産に関する傑作の宣言」(傑作宣言)の三件(能楽・人形浄瑠璃文楽・歌舞伎)の統合により現在、下図の二十二件が「代表一覧表」に記載されている。これらを見ると、和食を除けば、重要無形文化財(芸能・工芸)と重要無形民俗文化財に他ならない。



刀剣・小道具・甲冑武具
目白 飯田高遠堂
代表取締役 飯田慶久
〒161-0033
東京都新宿区下落合3-17-33
TEL 03-3951-3312
FAX 03-3951-3615
<http://www.iidakoendo.com>

(株)美術刀剣松本
松本 富夫 義行
〒278-0043 千葉県野田市清水199-1
TEL 04-7122-1122
FAX 04-7122-1950
www.touken-matsumoto.jp

美術日本刀・鐔・小道具・甲冑
日本の伝統文化を彩る
JAPAN SWORD CO., LTD.
(株)日本刀剣
伊波賢一 Ken-ichi Inami
〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-8-1
TEL 03-3434-4321
FAX 03-3434-4324

銀座 泰文堂
〒104-0061 東京都中央区銀座4-3-11
松崎煎餅ビル4階
(株)銀座泰文堂 代表 川島貴敏
TEL 03-3563-2551
FAX 03-3563-2553
フリーダイヤル 0120-402037
<http://www.taibundo.com>

刀剣 高吉
古名刀から現代刀、御刀のことならお任せください!
連絡先 090-8845-2222
代表者 高島吉童
東京都北区滝野川7-16-6
TEL 03-5394-1118
FAX 03-5394-1116
www.premi.co.jp

刀 剣 界

消費税転嫁対策特別措置法施行へ(続) 消費税転嫁に関わる注意事項

来年四月に、消費税率八〇引き上げが実施されることは、周知の通りである。「消費税の円滑かつ適正な転嫁の確保のための消費税の転嫁を阻害する行為の是正に関する特別措置法」通称、見出しに示した法律の施行について前号では、この目的と私たちの商取引に深く関わる「三、表示方法」を紹介したが、今回は残り三項目について取り上げたいと思う。

- 一、消費税の転嫁拒否等の行為の是正に関する特別措置
- 二、消費税の転嫁を阻害する表示の是正に関する特別措置
- 三、価格の表示に関する特別処置
- 四、消費税の転嫁及び表示の方法の決定に係る共同行為に関する特別措置

導入により発生する諸問題と対応を、次のように規制している。

定期的な商取引がある事業者間で、消費税が上がってもその上乗せをさせず同じ価格で納めさせたり、それに対して逆に購入を迫ったりと不利な扱いをすること。また、消費税上乗せ分サービスを明言する販売促進行為。

為。一方、業界団体の価格表示・端数計算方法統一を認める。そして国は、国民への広報をし、違反者の通報者を保護し、調査と指導を徹底する責務を負う。

価格表示は、既に大手スーパーや専門店が方法を発表し始め、引き上げ後の新しい郵便切手発行も発表され、現実を感じ始めている。

私たちはお客さまへ販売の際、キリの悪い金額を請求し難いことも多いと思うが、法令を理解し遵守しなければならぬだろう。さらに、世界から取り残されない国家財政健全化への効果を期待しつつ、流通の活性化を望むところである。(伊波賢一)

■全刀商の活動 組合交換会のとある風景



組合交換会は十時開会となりましたが、実際には意外と朝早くからスタートしています。遠方の組合員ほど会場近くの都心のホテルに宿泊しているのでしょうか。八時半過ぎには既に数人が会場に到着し、バッグから品物を出しています。

売りの番は到着順というので、九時過ぎには大半の参加組合員が集まり、たくさんの刀剣・鐔・甲冑などが旅館の配膳盆のようなものに並べ置かれて出品されます。スタートの十時直前には、畳敷きの床一面に高価な品物が所狭しと並びます。他店の品物と紛れないか、外部の人が見たら心配する光景でしょう。

この組合の基幹事業である交換会で、残念ながらまた不払い事故が発生したようですが、支払いを踏み倒す輩はいても、交換会場では決して品物が紛失しないのがこの業界の自慢です。

それゆえ、会場内を見知らぬ人がウロウロ歩いていると、とても気になります。服装が地味でもある意味、とても目立つ存在です。

そういうときは、すぐに仲間組合員に「あの人が知っているかい。どちらの店の方？」と確認を取ります。大概の場合、どちらかの組合員の社員なので、本来は店主が同伴者を事前に市場運営委員に紹介し入場承諾をもらわなければなりません。交換会開催案内通知には、買い上げ限度額とともに「案内通知のない方の入場お断りします」と毎回明記されています。

交換会会場には会場係の人手急便などの運送屋さん、お弁当の配達人、銀行員、税理士、弁護士、ビルの管理の人など、

警察庁保安課を訪問

十一月二十九日、深海理事長と清水専務に同行して警察庁の保安課を訪ねました。今回は「刀剣界」の編集委員として取材を兼ねての訪問です。

さすがに霞ヶ関の庁舎の偉容には、一般の人が入るには一瞬ためらわれるような迫力がありました。理事長は専務理事時代の八年間と現職の期間を合わせると警察庁訪問は十数回、清水専務も七年間専務職にあり、お二人とも慣れたものでしたが、私は終始緊張していました。

今回の訪問の理由は、ご指導いただいた『やさしいかな』組合員以外の人も出入りしています。運営委員は、自分の商売の合間には周りに、特に人の出入りには目を配る必要大いにあるのでは。

理事長はさらに、登録証の不正取得や改ざん等は当然警察の担当であり、登録証の付いている刀剣類はすべて文化庁・都道府県教育委員会の受け持ちという考え方で問題の解決にならない旨を訴えました。

十一月二十九日、深海理事長と清水専務に同行して警察庁の保安課を訪ねました。今回は「刀剣界」の編集委員として取材を兼ねての訪問です。

警察庁がすぐに対処するとの回答は得られませんでした。この問題は組合と警察庁だけでなく、文化庁や登録事務を扱う教育委員会なども含めた関係機関との検討機会が設けられるべきではなからうかということになりました。

長さんが同じレベルの保安課の担当官を紹介してください、相談のテーブルにつけたという経緯もあります。

約一時間の話し合いの中で、当方の主張は一通り聴いていただいたので、あとは、組合として文化庁・教育委員会等との会談機会を設ける作業に入る必要があるかと考えられます。

貴重な時間を割いていただいた警察庁保安課の原田警視正と、保安課をご紹介いただいた生活安全課の上條課長には、あらためてお礼を申し上げます。

『やさしいかな』の普及とともに、刀剣類の所有者変更届出がとみに多くなっています。が、そのために業界はじめ、刀を所有する愛好家が不利益を被ることなど、あってはならないことです。何とか組合の力を結集して問題の解決を図りたいものです。

(生野 正)

I 消費税の転嫁拒否等の行為の是正に関する特別措置
平成26年4月1日以降に供給する商品又は役務について、消費税の転嫁を拒む行為等が禁止されます。適用対象となる主な取引及び禁止される行為は以下のとおりです。

転嫁拒否等をされる側(買手)	転嫁拒否等をされる側(売手)
大規模小売事業者	大規模小売事業者と継続的に取引を行っている事業者
右欄の事業者等と継続的に取引を行っている法人事業者	○ 資本金3億円以下の事業者 ○ 個人事業者等

II 消費税の転嫁を阻害する表示の是正に関する特別措置
平成26年4月1日以降に供給する商品又は役務について、消費税分を値引きする等の宣伝や広告が禁止されます。禁止される表示は以下のとおりです。

禁止される表示	禁止される表示の具体例
① 取引の相手方に消費税を転嫁していない旨の表示	「消費税は転嫁しません」 「消費税は当店が負担しています」
② 取引の相手方が負担すべき消費税に相当する額の全部又は一部を対価の額から減らす旨の表示であって消費税との関連を明示しているもの	「消費税率上昇分値引きします」
③ 消費税に関連して取引の相手方に経済上の利益を提供する旨の表示であって②に掲げる表示に準ずるもの	「消費税相当分、次回ご購入に利用できるポイントを付与します」

IV 消費税の転嫁及び表示の方法の決定に係る共同行為に関する特別措置
平成26年4月1日以降に供給する商品又は役務を対象にした、事業者又は事業者団体が行う軽微カルテル・表示カルテルが独占禁止法の適用除外となります(公正取引委員会に対して事前に届け出ることが必要です。届出書の様式など、具体的な届出の方法については公正取引委員会HPを御覧ください。)

(1) 軽微カルテル(消費税の転嫁の方法の決定に係る共同行為)
(例1) 事業者がそれぞれ自主的に定めている本体価格に、消費税額分を上乗せすること
(例2) 消費税額分を上乗せした結果、計算上生じる割増について、切上げ、切捨て、四捨五入等により合理的な範囲で処理すること
※ 税込価格や税込価格(本体価格)を決めることは、適用除外の対象にはなりません(独占禁止法に違反する行為ですので注意してください。)
※ 軽微カルテルについては、参加事業者の3分の2以上が中小事業者であることが必要です。

【中小事業者の範囲】	資本金等の額(会社)	又は	常時使用する従業員数(会社又は個人)
製造業、建設業、運輸業	3億円以下		300人以下
卸売業	1億円以下		100人以下
サービス業	5千万円以下		100人以下
小売業	5千万円以下		50人以下
政令で定める業種	業種ごとに政令で定める金額以下		業種ごとに政令で定める数以下
上記以外の業種	3億円以下		300人以下

(2) 表示カルテル(消費税についての方法の決定に係る共同行為)
(例1) 税率引上げ後の価格について、「消費税込価格」と「消費税額」とを並べて表示する方法を用いること
(例2) 税率引上げ後の価格について、「消費税込価格」と「消費税抜価格」とを並べて表示する方法を用いること

IVに関する問い合わせ先:公正取引委員会取引企画課 03-3581-5471(代表)

ふるさと自慢 第6回 ●岡山県
神話、宝剣—その国吉備王国
 安東 孝恭

神話伝説にあるように、わが国の創造は伊弉那岐・伊弉那美の男神が「天の沼矛」による開闢となった。皇祖元照大神の弟である須佐之男命が「天叢雲剣」を得て、それをまず最初に備前国石上布都之魂神社へ奉納し、その後大和国石上神社へ遷置されたのである。初代神武天皇は南九州を出られ、筑紫・防州・府中を経て吉備にいられた。その後、奈良・和歌山へと遷宮された。日本国の創世においては天皇を統帥に、將軍と時の為政者たちによって治められた。



雲海の中に浮かぶ備中松山城 (岡山県提供)

十代崇神天皇の御宇が大古備津彦命で、実質の日本国統治と総轄をされた初代神武天皇と同じ「始馭天下之天皇」の称号が叙任されている。十二代景行天皇皇后が、十三代となるはずであった倭武尊の母上である。十四代仲哀天皇の皇后が神功皇后で、吉備王国あるいは邪馬台国女王卑弥呼と思われる。西暦三三〇年ごろ三十国を

支配していたと「魏志倭人伝」にある。備前・備中国は通称「吉備」と呼ばれてきた。日本は小さな島国とはいえ、この地域は広大な平野を有し、四方を九州・四国・紀伊・中国山脈に囲まれていて、温暖で天変地異、特に風水害・冷害が少なく、地質学上でも地震帯から外れている。

古学術調査により岡山市津島にある朝寝鼻貝塚から縄文前期で九千年前の土器からプラントオパール化した稲粉が発掘された。この地域には、日本最古の千引カナク口タタラ還元鉄遺跡もある。吉備王国を守護し、内乱や大陸・朝鮮半島との交流や侵略により、戦闘技術の進歩が矛・鏃・剣・太刀と改良され、反りを入れることでより鋭利となっ

た。機能性と実用性の必要から意図的に武器変遷となった。鉄器・農具・武具は弥生から古墳時代にかけて品質の改良となり、大陸や半島からの需要が伸びタタラ還元鉄の消費量も増大し、労働人口の流入と俘囚たちが集落に降りてきては女性をいたぶることが恐怖心となり、炉の中の半融解の青い鉄鉄や赤い鉄鉄が赤鬼・青鬼の比喩を擬人化し、八人目の姫が犠牲とならないための八岐大蛇伝説のごとく口誦と伝説となった。朝鮮半島や大陸に向けての貿易と軍港のある山陰を統制する必要があった。時同じくして、桃太郎伝説の腰に付けた吉備団子で鬼退治伝承と内海そして日本海海賊の制御のたもととなった。

若者広場 12
 荻田直樹

新撰組の故郷で
 研ぐ

私の家は、祖父の代から東京・立川で日本刀の研磨を仕事としていました。小さいときから仕事をしている姿を見ていたので、次第に日本刀へ興味を持っていったのを覚えています。高校を卒業して藤代興里先生のところへ入門し、十年間という長いようで短い期間、研磨の教を請い、平成二十四年四月に独立させていただき、立川市に仕事場を構えることになりました。

立川がある三多摩は新撰組の故郷であり、近藤勇の大和守秀国、土方歳三の十一代会津兼定が大事に受け継がれています。また、三多摩では下原鍛冶が室貴子様が皇后の妻島津家へ嫁入りされた。皇室の存続と継承されるべく重大な掟と定めで、輪廻である。

今までお世話になった藤代先生をはじめ、いろいろなアドバイスをくださった諸先輩、本当にありがとうございます。これからご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願ひ申し上げます。 ■連絡先 11-9000022 東京都立川市錦町1-118 ☎042-5332268

日本で最初の姉妹都市(シスターシティ)縁組が昭和三十一年に、最先端コンピューター発祥の地方リフォルニア州サンゼ市と、約二千年前にわが国第一次鉄器産業革命の発祥の地、吉備国岡山と



「吾妻鏡」 『参考文獻』 『古事記』 『日本書紀』 『資料』 岡山県古代吉備文化センター・岡山市埋蔵文化センター (筆者は学芸員資格所有)

一回ご紹介するのは、JR立川駅南口より徒歩二分、ウインズの前にお店を構える荻田刀剣店の三代目、荻田直樹君です。彼は藤代興里氏の元で十年の修業を積み、昨年独立した若い研師です。私と荻田家とは二十五年以上のお付き合いになります。初代は荻田有雄さん。八王子の荻田徳市さんが経営していた刀剣店で、研磨技術を習得しました。空襲で焼け出され、立川市に現在のお店を設けます。「戦中は軍刀の研磨も行い、出征する兵士の刀を徹夜で研いでいた。八王子は盆地だから、厳冬期になると刀身が砥石に瞬間凍りつくほど寒く、指先を切ることもあった」などと話してくれました。懐かしく思い出します。 さて、二代目は荻田直治さん。私の一回り上の同じ丑年生まれで、親友です。彼は小野光敬先生の弟子である五十嵐一郎氏に師事。荻田刀剣店を引き継ぎ、現在に至ります。持ち前の器用さで仕事をこなす一方、気さくな性格は誰からも愛され、商店街の役員、日刀保多摩支部役員、太極拳の指導者、海外の愛刀家との交流と、

研師であった祖父玉治さんの下で三年ほど修業されていた賢蔵さんは、お祖父さまの勧めで後の人間国宝藤代松雄先生に入門、八年の修業を経て独立されました。その後は、重要文化財の名物宗三左文字をはじめとした名刀を数多く研がれるなど、斯界での活躍は、ご存じの通りです。 また、日本美術刀剣保存協会の評議員や重要刀剣・特別重要刀剣の審査員、新作刀コンクールや研磨技術等発表会の審査員などの役職を長年務めておられます。 ■連絡先 11-7700051 東京都練馬区関町北二七-15 ☎03-3928-0062

多忙な日々を送っています。当然ながら、下原刀の研究、新撰組隊士たちの刀の研究、刀絵図の作成にも造詣が深く、アメリカで個展を開いたほどです。 そして、刀一筋の環境で育ったのが三代目の直樹君です。刀の持ち味を最大限に生かす研磨を目指しており、急ぐ仕事、手を抜く仕事は絶対にしません。少々時間がかかり、父親から見ると歯がゆいようですが、この頑固さが職人魂だと思います。才能を開花させ、立派な研師に成長すると確信しています。 なお、荻田直樹君は、花嫁を募集中です。この記事を読んで、お付き合いしてみたい、手紙を書きたいと思われた女性も多いことでしょう。大歓迎です。(生野 正)

■計報■
 山岸素夫氏(やまぎし・もとお)10月26日死去。86歳。山岸氏は日本甲冑研究の第一人者。『究』『日本甲冑の基礎講座』『日本甲冑の実証的研究』など著書多数。ここに哀悼の意を表し、福をお祈ります。

刀職紹介 第14回
 〈研師〉墨賢蔵さん
 墨賢蔵さんは、昭和十五年生まれの七十三歳。昭和・平成の名研師と言われ、愛刀家・収集家の間では「スミケンさん」の愛称で親しまれています。現在でも、本来変わるはずのない地鉄模様を変えてしまう、いわゆる「地鉄を動かせる研師」という評判です。

川島貴敏
 研師であった祖父玉治さんの下で三年ほど修業されていた賢蔵さんは、お祖父さまの勧めで後の人間国宝藤代松雄先生に入門、八年の修業を経て独立されました。その後は、重要文化財の名物宗三左文字をはじめとした名刀を数多く研がれるなど、斯界での活躍は、ご存じの通りです。 また、日本美術刀剣保存協会の評議員や重要刀剣・特別重要刀剣の審査員、新作刀コンクールや研磨技術等発表会の審査員などの役職を長年務めておられます。 ■連絡先 11-7700051 東京都練馬区関町北二七-15 ☎03-3928-0062

刀 剣 界

平成26年1月15日発行(隔月刊)

昨秋、ポーランド各地において、日本刀の講演と実演を中心とする文化交流が行われた。初めての本格的交流事業から、今後の教訓とすべき点は少なくない。訪問団の一員として参加した阿部一紀氏に、詳細をレポートしてもらった。

訪問団は刀職ら十四名

昨年、「大刀剣市」にポーランド日本刀協会会長のヤセック氏が来ていました。実は彼はほぼ毎年、大刀剣市を楽しみに来日し、文化的に有名な各地を訪問している日本通です。また八月九日には、トルン地方博物館の学芸員、バグエウ・チョピンスキ氏が備前長船刀剣博物館を訪問されました。

トルン市はポーランド北部に位置し、一九九七年にその都市計画と建築美がユネスコの世界文化遺産に登録されており、トルン地方博物館は十五世紀以前から残っている壮麗な旧市街地にあります。昨年、同館館長マレック・ルビンコウィッチ氏より備前長船刀剣博物館に対し、ポーランド国内の日本刀や鎧・刀装具類の修復・保存・管理についての支援・指導、情報交換の申し出があり、備前長船刀剣博物館もそれに心惹かれるべく友好の意を返したところから、今



ポーランド訪問地図

技術交流とともに国と国との絆を支える大きな柱であるとして、出張の際に触れたポーランドにある数多くの日本刀や刀装具の保全・管理の問題を何とかしたいという関係者の熱意を背景に、今回の機会を作っていただきました。そして、矢田氏とともにスケジューリング編成や訪問先の博物館への対応な

回のポーランド訪問は実現へと向かいました。

期間は十月九日から十八日まで。文化庁・瀬戸内市・一般社団法人全日本刀匠会事業部などから援助を頂き、訪問団が編成されました。備前長船刀剣博物館学芸員の植野哲也氏が団長を務め、刀職関係では副団長として全日本刀匠会会長の三上貞直氏、鞘師の石崎三郎氏、刀身彫刻師の片山重恒氏、刀身彫刻・装剣金工師の木下宗風氏、そして研師の私、さらに全日本刀匠会事業部理事の杉山昌男氏、テレビせとうちクリエイティブのディレクター安田健氏と同社カメラマン井上慎一氏(海を渡った備前刀をテーマにドキュメント番組制作するため)、刀剣の漫画でお馴染みの漫画家のかまたきみこさん、角川書店編集者の及川史朗氏、中国電力OBの白髭修一氏ご夫妻と、同社海外事業主管部門の矢田秀夫氏の総勢十四名。

白髭氏には、文化交流は経済・技術交流とともに国と国との絆を支える大きな柱であるとして、出張の際に触れたポーランドにある数多くの日本刀や刀装具の保全・管理の問題を何とかしたいという関係者の熱意を背景に、今回の機会を作っていただきました。そして、矢田氏とともにスケジューリング編成や訪問先の博物館への対応な

どにご尽力を賜りました。

十日間の仕事のやりくりと準備には、皆さんが苦勞なされたことと思います。ともあれ三つのグループに分かれた訪問団は、ポーランドに向け飛び立ちました。トルンシットのためのドイツ・フランクフルト空港で関空出発組と無事合流。ポーランドは九年前にEUに加盟、今はシェンゲン圏内なので、トランジット国の入国審査で入国できます。刀剣の持ち込みでしばし拘束されていた三上刀匠も解放されて、ようやく全員がそろいました。

迎えに来てくださったのは、日系二世の梅田友穂氏と日本企業誘致の仕事をしている中村富士夫氏、そして通訳の小見アンナさんとフビツカ・エディタさん。通訳のお二人のご主人はともに日本人で、日本在住も長く、非常に達者な日本語と優秀な頭脳で双方の主張や意見を正確に伝えていただきました。彼女たちは明るさと熱心な仕事ぶり、今回の訪問の重要な役割を果たしてくれました。

トルンで開催された「鐔展」

夜、ワルシャワ駅前のマリオットホテルに到着。ホテルの部屋から、ワルシャワ駅の横に不気味で威圧感のあるアンナさん曰く「注射器のようなビルが望めます。高さ三三メートル、四十二階建て、一九五五年に竣工したスターリンからの贈り物とのこと。ワルシャワ条約機構(東欧軍事同盟)が結成された年、すなわちソビエト支配下の時代に建てられた、ポーランド人にとってはありがたいよう

ポーランド訪問記

報告 ● 阿部 一紀(研師)



トルン市街地を対岸から望む



訪問団一行とスタッフたち



植野団長より記念品を贈呈



トルン地方博物館での「鐔展」会場風景

四十五分)、コンパクトメントの車窓から眺める景色は、平原の連続です。ポーランドは南端の一部を除いて大平原の国で、農業も盛んです。そして樹木の伐採と運搬が平地でできることは、日本人にとっては驚きです。

トルン駅から旧市街地の宿泊地に移動。泊まるホテルも含め、現代の建物は一つもありません。天文学者のニコラウス・コペルニクス生誕の地としても有名で、旧市街地にあるコペルニクス像は観光の名所となっています。

北部ヨーロッパで最も壮麗な市庁舎と言われる中世の建物の迎賓室で、われわれ訪問団の歓迎式が開かれました。ポーランド訪問の重要な目的が、トルン市庁舎に併設されるトルン地方博物館で開催される「鐔展」において、鍛刀・研磨・白鞘・刀身彫刻・彫金の実演と刀に関する講演を実現させることでした。

われわれ訪問団を待ち望んでいてくださった、博物館長マレック・ルビンコウィッチ氏より歓迎の挨拶があり、続いて植野団長がそれに応え、お互いに握手を交わし記念品の交換などが行われました。このとき車椅子で出迎えてくださったポーランド刀剣部名誉会長のクシストフ・ポラン氏は、長年、日本刀や刀装具の研究をされ、日本刀関係の執筆にも関わっており、これらの保全に努めてきた功労者で、この訪問を一番心待ちにしていた一人です。トルンの訪問が終わるころ、「長年の夢がかなった」と笑顔で語っておられた姿は印象的でした。

歓迎会後、博物館に移動。刀剣の調査を実施し、翌日の実演・講演と、日本から持参した刀や刀装具、パネルの展示準備をしました。国内外に限らず、遠隔地での

実演・講演を成功させるためには、現地想定外の事態が起きることに配慮して準備しなくてはなりません。特に海外の場合は講演内容を事前に翻訳していただく必要があります。難解な日本語の専門用語に通訳さんはご苦勞なされたことと思います。

トルン市が用意してくださった豪華料理による歓迎夕食会に出席。副市長ほか、展覧会関係者との懇談で、古い歴史から戦時下にあった近代、そして現代に至る話題について、それぞれ自国の言葉で自由にやりとりできたことも、通訳さんのおかげです。ちなみに、ポーランドの料理は非常においしかったが、量が多い。

刃文・働き・地鉄…すべてが美しい

十一日、朝早くからマルボルク城を見学。夕方五時から、翌日から開催される「鐔展」のレセプションが行われました。トルン地方博物館は五方所に分かれていて、その一つにコペルニクスの生家が充てられています。「鐔展」が開催されたのは、その中の「星の館」と呼ばれる東洋美術を展示する博物館で、奥には館長自慢の日本庭園があります。

館藏品ほか五百点の鐔が展示される会場で、来賓で埋め尽くされた中、館長はじめ、トルン市長、日本刀部会長などの挨拶がありました。その一言一言に、日本古来の美術品に対する尊敬の念と関心の高さを感じました。

十二日、いよいよ講演と実演の始まりです。最初の講演は白髭修一氏による「剣客(求道者)のたどり着いた境地」。これはさまざまに剣客たちの流派が掲げる真理と、現代社会に通ずる思想の話で、われわれにとっても感銘の深

い内容でした。続いて植野哲也氏による「日本刀の聖地・備前長船と日本刀が出来るまで」と、私の「研磨の歴史」「日本刀の研磨工程」。いずれも渡航前から準備していた講演内容を、通訳の方が正確に伝えてくださり、講演後のデイスカッションも非常に活発に意見を交わすことができました。

実演は、石崎三郎氏による「館藏品の鞘修理と白鞘の製作」。石崎氏はコンクールにおいて白鞘・拵で数々の入賞歴があり、経験も豊富な方です。木下宗風氏は「刀身彫刻・刀身に龍を彫る」。専門は刀身彫刻ですが、金工としての技術も優れています。片山重恒氏は「鉄鐔に梅を彫る」。彼も専門は刀身彫刻ですが、彫金技術も優秀で入賞歴もあり、二人とも今後ますます活躍が期待されています。

それぞれの職方さんの周りには、多くの来賓者が囲むように集まっています。実演中誰一人動こうとせず、熱心な質問が次々と寄せられますが、その内容を二人の通訳さんが丁寧に翻訳してくださったので、微妙なニュアンスも伝わったはず。夜七時からは、石畳の中庭で本日のメインイベント、三上貞直刀匠による鍛錬の実演です。煉瓦で作った急ごしらえの火床、現地の刀鍛冶が用意した鞆、炭はバーベキュー用、向こう植はポーランド人。こんな状況で鍛錬したのはたぶん初めてのことだったと思えます。寒中、多くの観覧者が見守る中、落ち着いた手さばきで折り返し鍛錬と、現地刀匠が事前に用意していた本造り脇指の焼入れをお見せすることができました。

この鍛錬設備を用意したポーランドの刀鍛冶のヴォイチェフ・クシニエツシ氏が、心躍らせながら準備をしている姿と、日本語で

『刃文』『動き』『地鉄』すべてが美しい」と言葉に、本当に日本刀が好きなのだと感じました。ポーランド日本刀部会の方が製作した刀を三上刀匠と私が拝見し、お話しも伺いましたが、彼らの考えが、本当に美しい日本刀を作りたい、または知りたいという思いであることが理解できました。そして、正しく理解してもらうためには、今後の交流の継続が必要と感じました。

**各所での講演と
実演に高い関心**

十三日の講演は、かまたきみこさんと及川史朗氏による「ファッションと刀」。日本刀の外装はファッションであったこと、日本刀が現代文化の中でどのように登場してきているかなどが語られ、短刀拵の絵に好きな図柄を描くという体験も盛り込まれていて、参加者も一緒に楽しむことができました。実演は、昨日に続いて片山氏の彫金と石崎氏の白鞘製作、そして私の研磨の仕上げ(三上氏の刀で地艶・拭い・刃取りを行う)。日本刀の研磨は、美術品を対象とする技術が高度に発達していて、一般の方には単に研磨という概念では受け止めることができなかったかもしれません。伝統的技法による本物の技術を見せることは、理解していただく上で大切なことですが、これは日本でも同じことが言えると思います。

午後一時過ぎには片付け始め、ワルシャワへ移動の準備。移動の度に大きな荷物を運ばなくてはならないわれわれのために、その都度、現地の梅田友穂氏が自分のランドクルーザーで運んでくださいました。夜八時、ワルシャワ着。十四日、ワルシャワ大学の日本文化祭で白髭氏の「剣客(求道

者)のたどりの着いた境地と現代社会への示唆」の講演。これは主にワルシャワ大学日本語学科の学生が聴講していて、日本語で話されました。ほかに東京大学・信州大学などの日本の専門家やポーランド人によるものなど、三日間で三十以上の講演があったそうです。中でも白髭氏の講演は、現地の学生たちにとって非常に興味深く、多くの関心を集めました。

午後、ワルシャワ軍事博物館を訪問。表には世界大戦当時の戦車や戦闘機が置いてあり、東洋美術のブースには日本の武器や甲冑をはじめ、東南アジアの武器が国別に展示されていました。ここでも二十点ほどの所蔵刀剣を調査しましたが、トルンの場合と同じように、きちんと研がれた刀はありませんでした。

十七時半からは、日本国大使館広報文化センターにおいて、同センターの方が事前に募集した参加者約七十名を前に「日本刀の製作過程と研磨工作等のお話、手入れと鑑賞作法について」の講演を行いました。植野学芸員による日本刀の歴史、三上刀匠の作刀の話、私は研磨の話、石崎氏・片山氏・木下氏は「手入れの手法と鑑賞の作法」を映像と実際の作法を見せて説明し、参加者の方にも実際に刀を鑑賞していただきました。

質疑応答では、かなり知識のある方からも多数の質問があり、有意義な内容で終了しました。この日は同センターで用意いただいた寿司で、久しぶりに故国の味を堪能することができました。

十五日、ワルシャワ国立博物館で刀剣・小道具の調査。刀剣は三振のみでしたが、小道具は約百点あり、非常に良いものが多数保存されていました。その後、訪問団と博物館との懇談の場が設けら

れ、副館長の話では、安倍首相がポーランドを訪れた際、日本との関係を深めるという方針の下、ポーランド側では文化交流予算を計上しており、今後双方が協力できれば日本刀やポーランドの武器等に関する展示などに意欲的であるとのことでした。

**質の高い
マンガ博物館蔵品**

午後三時過ぎにはワルシャワからクラクフに移動しなければなりません。その短い時間にワルシャワ旧市街地の見学に出かけました。

ポーランドではコペルニクス、もう一人、このワルシャワで誕生し、青年時代を過ごしたショパンが有名です。ショパンは戦時下、故郷に帰ることができず、パリにて三十九歳で他界しています。通訳の方の解説の「ワルシャワ旧市街地はドイツ軍によって意図的に破壊された」という言葉が生々しく、被害意識はなかなか消えないのだと感じましたが、三十年の時を費やしてポーランド人によって修復され、一九八〇年にユネスコの世界遺産に登録されています。旧市街地見学後、慌ただしく鉄道にてクラクフに向かいました。車窓から大平原に沈む夕日を眺めつつ、クラクフ駅に到着。ここは、伝承では八世紀に始まり、十七世紀にワルシャワに遷都するまでポーランドの首都であった所で、日本の京都のような観光地と言えます。

大平原のポーランドですが、南部のクラクフ周辺には山があり、そこには炭鉱が集中しています。ちなみに、ポーランドの発電の九〇パーセントは石炭によるものです。十六日は、早朝六時半集合でアウシュビッツ強制収容所組と



各機関で刀剣類を調査した



三上刀匠の作刀実演。向こう楯はポーランド鍛冶



刀職の実演はどこでも人気を呼んだ



筆者による刀剣研磨の講演

ヴィエリチカ岩塩坑組に分かれて観光に出かけました。この日の午後、最後の訪問先であるマンガ(manga)博物館に集合しました。mangaとは浮世絵のことを言い、「北斎漫画」などの呼称もあります。幕末に始まったヨーロッパとの交流は、各国にジャポニズム(日本趣味)をもたらしました。旧体制が崩壊し魔刀令によって刀の需要が消えると、日本の美術品・工芸品は安価で大量にヨーロッパに流出しました。そして、国際万国博覧会で日本の美術品・工芸品が脚光を集め、空前の日本ブームが巻き起こった当時、ポーランド人の日本美術品収集家フェリクス・ヤシエンスキ氏は、北斎・広重・歌麿の版画、陶器、漆器、根付、能面、着物、武器、刀剣などを収集していました。その総数は一万五千点に上ります。この博物館の名前の由来は、日本美術に心酔した彼が、フェリクス・マンガ、ヤシエンスキと自分の名前に Manga のニックネームをつけたことによります。

**今後も期待される
ポーランドとの文化交流**

今回のポーランド訪問で感じたことは、日本の伝統的な美術品は繊細で上質である、それは日本文化の質の高さの象徴でもあり、現在も世界的に日本文化に関心が高まっていること。そして、海外の方々の期待に応えるべく、われわれ刀職者は、長い歴史の中で日本人が大切にしてきたものを認識し、何が大切なのかを真摯に探究し、真に美しいものを残さなくてはならないと、あらためて思いま

した。今回調査した刀剣で、研磨を施されているものは一点もなく、長期間放置されていたことによる錆の進行を考えると、良いものだけでもできるだけ早期に研磨などの修復をすることが望まれます。これはポーランドだけの問題ではなく、日本の博物館・資料館に保管されている刀剣類にも同様のことが懸念され、その総数はポーランドの比ではなく、一部の調査結果から推測すると数万振、あるいはそれ以上あるかもしれません。

ポーランド訪問は、中国電力の流出品には優れたものが多く、当館の所蔵品は、これまで調査した三カ所の博物館の中では格段に質が高いものでした。かつて東京国立博物館の小笠原信夫先生も調査をされています。日本刀の数はそれほど多くはありませんが、山城大塚藤原国包、阿州海部住藤原氏吉はかなり出来の良い作品でした。刀装具は約七百点あり、これらの優品約百点を調査しました。中でも夏雄の鯉の浮かし彫りの鉄鐔が印象に残りました。所期の仕事も完了し、翌十七日朝、訪問団はそれぞれのルートで帰国の途に着き、十八日朝には全員が無事に到着しました。

でした。これは、お二方が築かれた先方との信頼関係があってこそなし得たものと考えます。時間を削き、ご尽力をいただいたことに、心より感謝申し上げます。そしてもう一つ、ポーランド人が歴史的背景から親日的で協力的であったことも、成功に至った重要な要素となっています。訪問団にとっても、現地の方々にとっても、深い感銘が心に残ったことは間違いありません。

帰国後の十月三十日、備前長船刀剣博物館にて開催された「お守り刀展」の表彰式に出席しました。今年、同展覧会にて駐日ポーランド共和国大使賞が授与されることになり、ツィリル・コザチェフスキ大使本人から三上貞直刀匠に授与されました。授与された盾は、日本刀とポーランド騎士のサーベルがクロスしたフロンズの図柄でした。

ポーランド側は非常に意欲的であり、相互の努力によって、これからますます日本刀を通じた交流が期待されます。最後に、『刀剣界』に特別の紙面を提供してくださった全国刀剣商業協同組合ならびに編集委員会の皆さまに、心よりお礼申し上げます。

＜参考＞ポーランド人が親日的な理由
ロシア革命の混乱の中で親を失ったシベリアのポーランド人孤児七百六十名(一〜十六歳)を二度にわたり、日本政府・日本赤十字が受け入れたこと。日露戦争に駆り出され、二百三十高地や旅順で捕虜になったポーランド兵を四国松山で手厚く待遇したこと。第二次世界大戦当時、外交官杉原千蔵が大量ビザを発行して避難民を救った事実はよく知られているが、その大半はポーランド系ユダヤ人だったこと。日露戦争で大国に勝利した日本は、ロシア周辺国にとって当時、英雄的存在だった。

今号は増ページしていますが、記事多数につき、一部の連載は次号の掲載としました。

組合こよみ

(平成25年11月~12月)

- 11月1日 銀座刀剣倶楽部会場で『刀剣界』第14号編集委員会を開催(校正)。出席者、深海理事長・冥賀副理事長・清水専務理事・服部常務理事・赤荻理事・嶋田理事・生野理事・綱取理事・持田理事・飯田慶雄氏・大平将広氏・大西芳生氏・新堀賀将氏・藤岡弘之氏・松本義行氏・宮澤琢氏・土子民夫氏
- 12日 清水専務理事・生野理事・大林幹夫氏、事務所にて組合買い入れ商品を点検、交換会への準備
- 12日 芝パークホテルにて「大刀剣市」反省会を開催。実行委員29名が出席
- 17日 東京美術倶楽部にて組合交換会を開催。参加57名、出来高24,557,500円
- 17日 東京美術倶楽部にて『刀剣界』第15号編集委員会を開催(企画)。出席者、深海理事長・清水専務理事・伊波常務理事・服部常務理事・赤荻理事・嶋田理事・生野理事・綱取理事・飯田氏・大平氏・新堀賀将氏・藤岡氏・土子氏
- 29日 深海理事長・清水専務理事・生野理事が警察庁生活安全局保安課を訪問、『やさしいかな』編集協力のお礼を述べるとともに、銃刀法等につき協議
- 29日 冥賀副理事長・伊波常務理事・服部常務理事・大平理事が産経新聞社を訪問、「明美ちゃん基金」に31万円を寄託
- 12月10日 清水専務理事・嶋田理事が事務所にて査定などの問い合わせに対応
- 17日 東京美術倶楽部にて組合交換会を開催。参加63名、出来高13,552,250円
- 17日 東京美術倶楽部にて『刀剣界』第15号編集委員会を開催(校正)。出席者、深海理事長・清水専務理事・服部常務理事・赤荻理事・生野理事・綱取理事・持田理事・飯田氏・大西氏・大平氏・藤岡氏・松本氏・宮澤氏・土子氏
- 22日 東京刀剣倶楽部会場で『刀剣界』第15号編集委員会を開催(校正)。出席者、深海理事長・冥賀副理事長・伊波常務理事・赤荻理事・生野理事・綱取理事・持田理事・飯田氏・大西氏・大平氏・藤岡氏・松本氏・土子氏
- 27日 『刀剣界』第15号念校。出席者、深海理事長・服部常務理事・生野理事・綱取理事・土子氏



戦後、国際自動車会社の社長であった杉山正太郎先生がこれを受け継いだ。ちなみに杉山正太郎先生は、江戸時代初期、各藩にはそれぞれ特色のある武術が編み出され、伝承していた。私どもの伝承している双水執流も初めは福岡藩の支藩である直方藩に発祥し、後に福岡藩内での流行となった。その後、双水執流第十一代舌間弥五郎宗綱の高弟である松井百太郎宗忠が、明治二十一年(一八八八)に東京に出てそれを伝えた。

元禄十五年(一七〇二)の赤穂義士の討ち入りも当時、異例中の異例だったことから話題になり、現在まで「忠臣蔵」として受け継がれているのである。斬り合いはそれだけ珍しいというところなのだ。江戸時代の武術は、最悪の事態を想定しての剣術は当然あったが、ただそれよりも多くは護身術的なものが必要とされていたわけである。当流の組討の特徴は、相手が攻めてきたときに返す技がほとんどで、こちらから攻める技はわずしかないので特徴。また腰之廻は通常の剣術とは違って組討の要素が入っているもので、蹴りや跳躍などが多く含まれていて面白い。斬ることよりも突く技が多いのも、その特徴と言える。これは脇指が本来の技で、そのために斬るというより突く技が多様化されたと考えられている。

戦後、国際自動車会社の社長であった杉山正太郎先生がこれを受け継いだ。ちなみに杉山正太郎先生は、江戸時代初期、各藩にはそれぞれ特色のある武術が編み出され、伝承していた。私どもの伝承している双水執流も初めは福岡藩の支藩である直方藩に発祥し、後に福岡藩内での流行となった。その後、双水執流第十一代舌間弥五郎宗綱の高弟である松井百太郎宗忠が、明治二十一年(一八八八)に東京に出てそれを伝えた。

双水執流は江戸時代初期の承応(一六六〇)豊後竹田出身の二神半之助正徳という人物が現在の福岡県直方市に移住し、体術を主体として確立した。徒手による体術を組討と言ひ、刀や脇指を使うものを腰之廻と言ひ。源流は竹内流腰之廻小具足で、二神半之助が竹内流を学び、その後江戸時代に即した武道のスタイルに改良した。

現実には相手と接近した場合、刀は実際にはあまり役に立たず脇指の方がはるかに適している。さらにもっと密着した場合は脇指も役立たず、いち早く組討になるのが本当であった。



直方藩と福岡藩に伝わった武術 — 双水執流組討腰之廻 —

研師・双水執流清漣館主 白木良彦

元禄十五年(一七〇二)の赤穂義士の討ち入りも当時、異例中の異例だったことから話題になり、現在まで「忠臣蔵」として受け継がれているのである。斬り合いはそれだけ珍しいというところなのだ。江戸時代の武術は、最悪の事態を想定しての剣術は当然あったが、ただそれよりも多くは護身術的なものが必要とされていたわけである。当流の組討の特徴は、相手が攻めてきたときに返す技がほとんどで、こちらから攻める技はわずしかないので特徴。また腰之廻は通常の剣術とは違って組討の要素が入っているもので、蹴りや跳躍などが多く含まれていて面白い。斬ることよりも突く技が多いのも、その特徴と言える。これは脇指が本来の技で、そのために斬るというより突く技が多様化されたと考えられている。

職人の誇り 原動力

行田の国宝「金錯銘鉄剣」復元



行田時吉ある難題に挑んだ7年4現代の名工

行田時吉ある難題に挑んだ7年4現代の名工

行田時吉ある難題に挑んだ7年4現代の名工

【埼玉新聞】平成25年11月18日

代表 田中勝憲

古銭・切手・刀剣 売買 評価鑑定

株城南堂古美術店

〒153-10051
東京都目黒区上目黒四-1-110
TEL 03-371-0167
03-371-0168
FAX 03-371-0167

私が出会った珍品・優品

〈隕鉄剣〉

剣 銘 以隕鉄 弘邦造
平成十年春 長さ四八・八センチ

昨年二月、ロシア・チェリヤビンスク州に隕石が落下したニュースはまだ記憶に新しいところだが、SF映画を見慣れている私たちでも、隕石の分裂による光が太陽より明るく、また分裂の衝撃波と地上への被害の大きかったことに大驚かされたものである。

湖に落下した隕石は、径一・五メートル、重さが五七〇キロの塊だった。もしこれが人里でも直撃したならば、その周辺には計り知れない被害が及んだとみられている。

今回のような隕石を事前に見つけることは、大変難しいと言われている。というところは、隕石は人類にとって最大の脅威なのである。現に恐竜絶滅の主な原因は、巨大な隕石落下という。しかし、一方で地球生命の起源が隕石からもたらされたとの有力な説もあるように、隕石は生命を宿すものでもある。

人類が最初に出合った鉄は隕鉄である。隕鉄は比較的軟らかいために加工しやすく、石器のように成形して使用した。人類にとって、隕鉄はまさに天からの贈り物だが、古来より神様からの贈り物として世界中で特別視され、崇拜の対象ともなってきた。

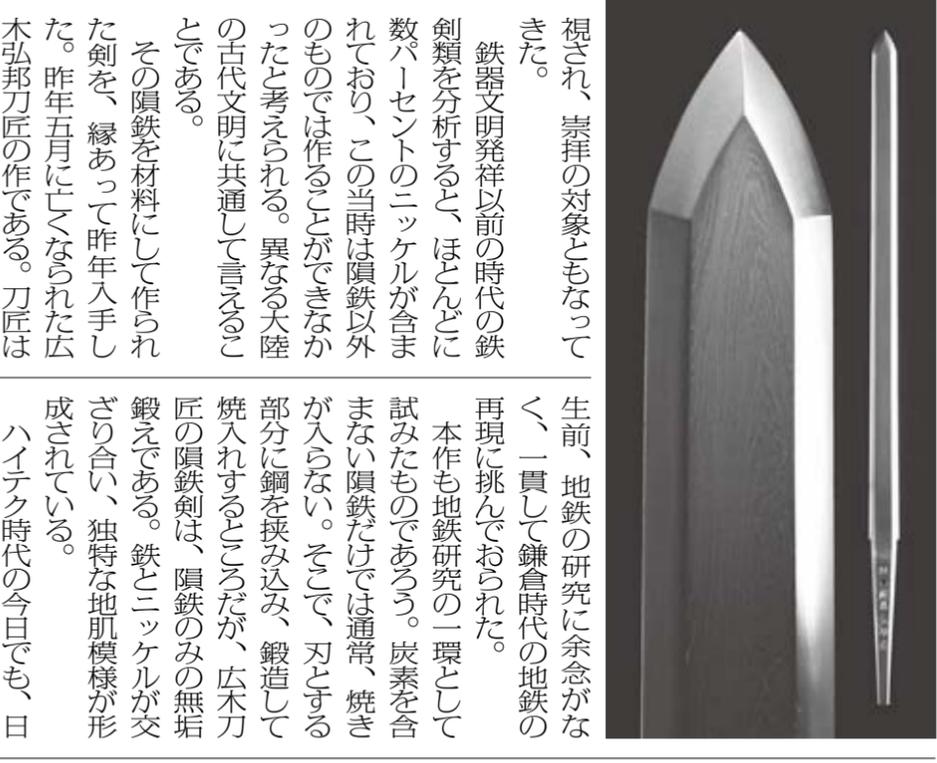
鉄器文明発祥以前の時代の鉄剣類を分析すると、ほとんどに数パーセントのニッケルが含まれており、この当時は隕鉄以外のものでは作ることができなかったと考えられる。異なる大陸の古代文明に共通して言えることである。

その隕鉄を材料にして作られた剣を、縁あって昨年入手した。昨年五月に亡くなった広木弘邦刀匠の作である。刀匠は生前、地鉄の研究に余念がなく、一貫して鎌倉時代の地鉄の再現に挑んでおられた。

本作も地鉄研究の一環として試みたものであろう。炭素を含まない隕鉄だけでは通常、焼きが入らない。そこで、刃とする部分に鋼を挟み込み、鍛造して焼入れするところだが、広木刀匠の隕鉄剣は、隕鉄のみの無垢鍛えである。鉄とニッケルが交ざり合い、独特な地肌模様が形成されている。

ハイテク時代の今日でも、日本刀には魂が宿り、霊力を備えているとして神聖視されている。その起源は、隕石からたらされた隕鉄剣(流星剣)ではないかと私は思う。

魂籠もる刀剣を生涯作り続け、最後に隕鉄剣を生み出した広木弘邦刀匠は、与えられた使命を全うし天に召されていった。流れ星(隕石)となつて、いつの世にか再来するのであろうか。(嶋田伸夫)



古河歴史博物館

〒306-0033 茨城県古河市中央町3-10-56 ☎0280-22-5211

堀川国広とその一門

日向国(宮崎県)に生まれた国広は、諸国を遍歴しつつ、作刀の技を磨き、京都一条堀川に定住しました。足利滞任時は、長尾頼長の依頼により「山姥切」の刀を作り、足利学校においても鍛刀しています。本展は、重要美術品5点を含む国広と

その一門の名品30点を紹介するとともに、当館が所蔵する赤羽刀を公開します。展示図録も販売。

会期：3月15日(出)～5月6日(火) 4月25日(金)休館。臨時休館あり
講演会：堀川国広とその一門 講師 岩田隆 4月19日(出)



今日、われわれが手に取ることのできる甲冑の九割が桃山時代以降に生まれた当世具足と呼ばれる形状のもので、残り一割が中世の甲冑、それから近代、現代の模写類と数えることができる。甲冑の収集家らにしてみればより少なく、より古く、そして戦場で武器として機能した中世のそれらに興味を移動してゆき、だが、当世具足の確立期に見る変わった形状のものや、着用者の体の動きに対応すべくアイデアを入れたもの、南蛮貿易以降の欧州の甲冑や工

福井市立郷土歴史博物館「甲冑の美」

当地の紅葉を思わせる糸の色に感動

芸を加味したもの、当世具足成熟期の大名道具のように工芸性の高いものへと興味を移し、よりカルトな深い方向へ進む選択もあろう。福井市立郷土歴史博物館の開館六十周年記念、平成二十五年秋季特別展「甲冑の美」を訪れた。この展覧会には、当地の松平家ものを中心に、異形の兜を備えた当世具足のほか、奈良小札より細かい札、魚鱗札、三枚胴、そして欧州・北米から熱い支持を受ける江戸中期の甲冑師、明珍宗察の大鎧もあり、カルトどころかパラノイアのための当世具足展と呼ぶにふさわしい内容だった。一階の常設展示の中にも水準の高い複製があったが、その本歌の藤島神社の相州鉢の新田義貞所用の伝えと文化財指定、これは何をか言わんやだが、ほかにも引掛かりを感じ

イベント・レポート

大阪歴史博物館「変わり兜×刀装具 戦国アバンギャルドとその昇華」

想像以上に素晴らしい展覧会

売却希望品として拝見したが、そのときは伝来を示す資料類は一切なく、かくして伝来は騙られるものかと、わずかに後味の悪さを残した。この秋、食の世界で産地の偽装などが取り沙汰されたが、博物館展示にも裏付けや証言を先駆けて確認することが大切かもしれない。しかし、こんなことは地方の博物館にわかってははずはなく、むしろキヤプシヨンの素晴らしい展示は、満足のいくもので、称賛に値する。芸員以下大変な努力であったことだろう。トーンを落とした照明に映えるこの地方の具足の色は、この地の山々の紅葉を思わせる。またハコと言っか、館の建築も紅葉に色づく街の雰囲気と壊してなかった。それにしても新幹線と急行で片道三時間四十分の日帰りはこたえるな。一泊して鑑やおろしそばでも食べてくれば良かったな。(網取譲一)

裏瓦は勝虫のデザイン。鞘は刻鞘に青貝微塵を組み合わせ、その上に虫を時給している。名品である。いずれも個人蔵で、小生は初めて見るものであった。それにしてもこの三点をゆくり鑑賞できてうれしかったと喜んでる展覧会ではないのである。甲冑・兜・鐔・小柄・弁・目貫・鞘塗から刀装(拵)に至るまで、名品が時代別に分けられ、丁寧な解説もついて鑑賞できるのである。気がつけば、小生は三時間半も展覧会場にいた。ここで各作品の解説はしない。ぜひ一度行くべき展覧会として推薦する。残念ながら大阪歴史博物館展は終了してしまったが、佐野美術館に移って二月十一日まで開催している。(持田員宏)

や朽葉の色はこの地の山々の紅葉を思わせる。またハコと言っか、館の建築も紅葉に色づく街の雰囲気を壊してなかった。それにしても新幹線と急行で片道三時間四十分の日帰りはこたえるな。一泊して鑑やおろしそばでも食べてくれば良かったな。(網取譲一)

上野の森美術館「エヴァンゲリオンと日本刀展」

「刀匠たちが挑んだエヴァンゲリオンの世界」について東京上陸!

全国で快進撃を続けてきた大人気展覧会「エヴァンゲリオンと日本刀展」が、ついに東京にてお目見えとなった。そのあまりの好評ぶりに、岡山会場を皮切りに、岡崎(愛知・広島・札幌・福岡・大阪・関(岐阜))を巡回、今なお各地の美術館・博物館から開催のオファーが続いているというエヴァ展が上野の森美術館にて開催され、新作三点も初披露された。既にご覧になった方も多いと思うが、「エヴァンゲリオン」と「日本刀展」では、伝統工芸の集合体である日本刀の職人たちが、アニメ「エヴァンゲリオン」新劇場版「の世界からインスピレーションを受け、現代デザインの日本刀を製作、世に問う、人気アニメとのコラボレーション企画である。愛刀家諸氏の方々からすると、「二体どんなメチャクチャな作品が展示されているのか?」と不安がられると思うが、展示作品のクオリティは驚くほど高いので、紙上にその一部を紹介したい。そもそもストーリーに表れる「ビザンチン」や「マゴロクソード」は、言わずと知れた備前長船と孫六兼元をモチーフにしたものである。刀身は通常コンクールなどで拝見するものと同じく素晴らしい出来であり、かつ斬新な刀身彫刻や形状カラフルで独創的な拵の数々は、コラボレーションという条件下でなければ生まれることなかったであろう、全く新しい作品群である。新作に加え、「エヴァンゲリオン新劇場版」のメカニックデザインを務める山下いくと氏が本展のためにオリジナルの刀剣類を描き下ろし、それを刀匠宮入小左衛門行平氏が製作するというコラボレーション企画も進行中とのこと、製作途中の刀身が展示されており、完成が楽しみである。最もその製作に苦心したと思われる

るのが、三上貞直刀匠とその弟子である金属造形作家、橋本庄市氏により製作された「ロンギヌスの槍」である。全長三三センチ、重量二二・ニキロという巨大すぎる本作は、三上刀匠の従来の工房に収まり切らず、本作のためにわざわざ工房を作り直したという。尋常ならざる力の入れようである。本作にどうしても触れてみたいと、某刀職関係者が手伝いを願ったほどの優品である。本作の特徴は、生物のDNAを模した二重螺旋構造。最初に二振の刀身を製作し、それぞれに柄をつなげてねじるという手順で完成された。ほかにも刀身の鍛造や電気分解加工などの技術が加わっていて、展示場ではその製作過程をまとめた映像が上映されていたが、多くの者が見入っていた。本展覧会の意義は、今まで日本刀に縁がなかった、特に常々私たちが魅力を感じたいと思っていた若い世代に日本刀という美術品を認知してもらえたことに加え、コラボレーションという企画であれば、誰も想像できなかった(あるいはとても製作が許されなかったであろう)作品群が生まれたことにある。また現代刀というジャンルにも、新たな一石を投じる転換点となったのではないだろうか。なお「エヴァンゲリオンと日本刀展」は今年、独立行政法人国際交流基金の主催により、フランスとスペインでの開催することが決定した。躍進はとどまるところを知らない。(飯田慶雄)

「エヴァンゲリオンと日本刀展」ヨーロッパ巡回展開催決まる

「エヴァンゲリオンと日本刀展」は、独立行政法人国際交流基金の主催により、本年、フランスとスペイン2カ国での巡回展開催が決定しました。

フランス展：2014年4月30日～6月21日 パリ日本文化会館
スペイン展：7月5日～9月28日 マドリードのABCミュージアム(日本スペイン交流400周年記念事業)

【ヨーロッパ巡回展に関する問い合わせ先】
国際交流基金 文化事業部 欧州・中東・アフリカチーム
担当：中島・永田
☎03-5369-6063 E-mail: Haruka_Nakajima@jpf.go.jp

東京美術倶楽部

本阿彌光洲氏が日本刀について講演

十月十二日、東京美術倶楽部において東京美術協同組合の青年会員(絵画や茶道員、陶磁器、骨董などを扱う四十歳以下の各種美術商で構成)を対象にした日本刀の講演会が行われた。講師は、公益財団法人日本刀文化振興協会理事長で研師の本阿彌光洲氏。約二時間にわたり、普段は日本刀を扱うことのない美術商の若手たちが熱心に聴き入り、質疑応答が行われた。同組合で日本刀の講演会が行われるのは、刀剣の扱い方について同会

のOBである株式会社日本刀剣社長の伊波賢一氏(当組合常務理事)が説明されたのを除くと、昭和十二年の本阿彌光洲師以来、実に七十六年ぶりのこと伺っている。余談ではあるが、この年は東京美術倶楽部が新社屋を竣工し、その記念講演として行われたものであり、当時の美術界における日本刀観がうかがえるエピソードである。講演中、日本刀の基本から本阿彌家における磨礪・浄拭・目利の三事や歴史、同家に伝わる折紙や伝聞な

どまで、幅広い知識が伝えられ、会員からの質問にも丁寧に答えられていた。日本刀文化を広く伝えるためには一般愛好家をはじめ、学芸美術商への啓蒙活動も必須であり、久しぶりに東京美術倶楽部にてこのような講演の機会が持たれたことは大変意義深い。会員である筆者も多くを学ばせていただいた。紙面を借り、あらためてお礼申し上げます。(飯田慶雄)

最もその製作に苦心したと思われるのが、三上貞直刀匠とその弟子である金属造形作家、橋本庄市氏により製作された「ロンギヌスの槍」である。全長三三センチ、重量二二・ニキロという巨大すぎる本作は、三上刀匠の従来の工房に収まり切らず、本作のためにわざわざ工房を作り直したという。尋常ならざる力の入れようである。本作にどうしても触れてみたいと、某刀職関係者が手伝いを願ったほどの優品である。本作の特徴は、生物のDNAを模した二重螺旋構造。最初に二振の刀身を製作し、それぞれに柄をつなげてねじるという手順で完成された。ほかにも刀身の鍛造や電気分解加工などの技術が加わっていて、展示場ではその製作過程をまとめた映像が上映されていたが、多くの者が見入っていた。本展覧会の意義は、今まで日本刀に縁がなかった、特に常々私たちが魅力を感じたいと思っていた若い世代に日本刀という美術品を認知してもらえたことに加え、コラボレーションという企画であれば、誰も想像できなかった(あるいはとても製作が許されなかったであろう)作品群が生まれたことにある。また現代刀というジャンルにも、新たな一石を投じる転換点となったのではないだろうか。なお「エヴァンゲリオンと日本刀展」は今年、独立行政法人国際交流基金の主催により、フランスとスペインでの開催することが決定した。躍進はとどまるところを知らない。(飯田慶雄)

十一月二十九日、公益財団法人日本美術刀剣保存協会の第六十六回刀剣研磨・外装技術発表会表彰式が刀剣博物館四階講堂において挙行された。入賞作品は十二月三日から十五日まで展示された。入賞者は次の通り。

- 研磨の部
 - 木屋賞 井上 聡
 - 竹屋賞 松村壮太郎
 - 千葉賞 藤代龍哉
 - 優秀賞 小宮光敏 神山貴恵
 - 是澤光昌

- 金造の部
 - 努力賞 三村昌三 石崎伸也
 - 各務弦太 大西伸夫 塚本浩之
 - 刈田直樹 湯浅健吾
- 白鞘の部
 - 努力賞 湯浅健吾

- 優秀賞
 - 秋山登 河合広明
 - 努力賞 永洞修
- 刀装の部
 - 優秀賞 久保純一
 - 努力賞 久保謙太郎
- 柄前の部
 - 優秀賞 宮本恒之
 - 努力賞 吉田謙三 三島幹則
 - (大平将広)

- 優秀賞
 - 久保純一
 - 努力賞 橋本幸律 出口智之
- 白銀の部
 - 優秀賞 宮本恒之
 - 努力賞 吉田謙三 三島幹則
 - (大平将広)



催事情報

■佐野美術館

〒411-0838 静岡県三島市中田町1-43 ☎055-975-7278

戦国アバンギャルドとその昇華 兜 KABUTO

織田信長、次いで豊臣秀吉が天下統一を目指していた群雄割拠の時代。下克上も夢ではない実力主義の世界に生きた猛者たちは、あまたの逸話とともに新たな時代の扉を開きました。そして彼らの型に捉われな

い生きざまは、戦の晴れ姿である兜に、かつてない斬新な形を生み出しました。伊達正宗は額に三日月を頂き、黒田長政は雄々しい水牛の角を生やした兜をかぶる。その発想力・具現力が生み出した鮮烈な造形は、単なる奇抜さだけでなく、高い見識によって洗練された緊張感を漂わせています。

続く江戸時代、その独創性はより細密さを増し、刀を納める鞘やその周辺の小柄、小刀、鐔などで新たな発展を見せました。

戦国の世に花開き、太平の世で成熟した、サムライ・アバンギャルドをご堪能ください。

会期：1月7日(火)～2月11日(火) 木曜休館

講演会「命がけの造形・戦国変わり兜を中心に」2月2日(日)

講師 小松康祐(日本甲冑武具研

究保存会常務理事)
担当学芸員のギャラリートーク 1月18日(土)・2月5日(水)
甲冑を着てみよう 1月11日(土)・19日(日)・2月8日(土)・11日(火・祝)
講師 菅野茂雄(国指定重要無形民俗文化財相馬野馬追北郷騎馬会会員)



■公益財団法人日本刀文化振興協会

〒115-0044 東京都北区赤羽南2-4-7 鷹匠ハイツ301号 ☎03-5249-4440

第5回「新作日本刀 研磨 外装 刀職技術展覧会」開催・作品募集のご案内

公益財団法人日本刀文化振興協会(刀文協)は平成26年度の公益目的事業として、長野県の坂城町ならびに坂城町鉄の展示館との共催により、第5回「新作日本刀 研磨 外装 刀職技術展覧会」を開催します。本展は下記の通り、大臣賞等をもって優れた作品を顕彰するコンクールと併せて、その成果を広く公開するものです。好評をいただいた昨年度の実績を踏まえ、今回はさらに充実した内容を期しています。

つきましては、関係各位におかれましては、鋭意ご応募いただきますよう、開催の概要に関しご案内します。

名称：日本刀の匠たち―第5回新作

日本刀 研磨 外装 刀職技術展覧会
会場：坂城町鉄の展示館
長野県埴科郡坂城町坂城6313-2
☎0268-82-1128

会期：6月21日(土)～8月31日(日)
授賞式・懇親会は6月21日を予定
分野：作刀・刀身彫刻・研磨・鐔(その他刀装具)・白銀(鍔その他金具)・白鞘・拵下地・柄巻き・鞘塗り・拵

授賞：特別賞(経済産業大臣賞を申請)・長野県知事賞・信濃毎日新聞社賞・NBS長野放送賞・坂城町町長賞・日本刀文化振興協会会長賞・技術奨励賞・新人賞・功労賞・金賞・銀賞・銅賞・入選

※詳しくは事務局まで。

■刀剣博物館

〒151-0053 東京都渋谷区代々木4-25-10 ☎03-3379-1386

祈りのかたち～刀身彫刻と刀装具～

人は何を思い、刀剣や刀装具に神仏を刻むのでしょうか。

日本刀が形成された平安時代後期、既に刀身彫刻は見られます。刀身に施された彫刻には樋など重さの軽減を目的とした実用性からくるもののほかに、鎌倉・南北朝・室町時代と戦乱の世を重ねる中、神仏の加護を求め、信仰の表現として刀身に表されたものが数多く残っています。

そのかたちは、神仏そのものの姿や、梵字など象徴するものであったり、あるいは八幡大菩薩などの名号であったりします。とりわけ密教との関わりは強く、不動明王や俱利伽

羅に素剣、護摩箸などがよく刀身に彫られました。

江戸時代になると、以前の宗教的な側面を踏まえつつ、より彫刻の装飾性が強くなっていきます。同時に江戸時代、一挙に金工芸術としての広がりを見せた刀装具にも、さまざまな神仏やその象徴が描かれ、人々の平安を願う気持ちがよく伝わってきます。

この度の展覧会を通じて、日本刀に端的に表された祈りのかたちを、刀身彫刻と刀装具の双方から感じていただければ幸いです。

会期：1月7日(火)～5月11日(日) 月曜休館(祝日は開館)

■一般社団法人日本鉄鋼協会 総合企画部門 鉄鋼プレゼンス研究調査委員会「鉄の技術と歴史」研究フォーラム

第26回フォーラム講演会

「なぜ、明治期日本の製鉄・製鋼遺産が世界文化遺産候補となったか」

日本鉄鋼協会「鉄の技術と歴史」研究フォーラムでは、日本古来の製鉄法と加工法の技術と歴史を世界史的・科学的に研究し、学問的課題の解明を目指すとともに、新たな鉄鋼技術のシーズを探求することを目的としています。

日本政府は2015年度の世界文化遺産登録を目指して、「明治日本の産業革命遺産―九州・山口と関連地域(8県・28施設)」のユネスコへの推薦を決定しました。

日本は幕末から明治にかけて、重工業による急速な産業化を進め、非西欧地域における最初の産業国家となりましたが、これは世界史的に見ても技術的・文化的価値の高い事象とされています。重工業の中心に製鉄・製鋼が含まれており、「鉄の技術と歴史」研究フォーラムの研究テーマと深く関連しています。

当フォーラムは平成24年9月に釜石市で、震災復興・産業遺産群の世界遺産登録支援を目的として「東北地方の鉄生産技術と文化」をテーマとする講演会・見学会を開催しました。そこでは、東北地方における製鉄の歴史と今、大島高任の役割と功績、釜石の鉄産業遺産群の世界遺産登録への取り組みなどが熱く議論されました。

昨年、日本における鉄産業遺産群の世界文化遺産登録への推薦が決定したこの機会に、あらためて世界文化遺産候補としての日本における製鉄・製鋼遺産を歴史的・技術的に評価することは意義があると考え、この講演会を開催することを企画しました。

演題にふさしい講師による興味深

い講演がそろっています。皆さまのご参加をお待ちしています。

日時：2月8日(土)

会場：千葉工業大学 津田沼キャンパス2号館3階大教室
〒275-0016 千葉県習志野市津田沼2-17-1

講演：

基調講演Ⅰ：なぜ、明治日本の産業が世界文化遺産候補となったか
産業遺産国民会議 加藤康子

基調講演Ⅱ：世界史の中の幕末明治期 late-comer日本の製鉄
稼働資産を含む産業遺産に関する有識者会議メンバー 松尾宗次
釜石鉱山・橋野高炉の歴史と意義
日鉄鉱業(株) 小野崎 敏
官営八幡製鉄所創立の産業史的意義について

新日鐵住金(株)八幡製鉄所 菅和彦

葦山反射炉の歴史と世界遺産登録への取り組み

伊豆の国市観光・文化部 工藤雄一郎

薩摩の鉄づくり―特有の砂鉄製錬炉ミュージアム知覧 上田 耕

山口・萩を中心とした鉄産業遺産―大板山鉄山を中心として

梅光学院大学 渡辺一雄
世界遺産登録に向けた日本鉄鋼協会の役割と支援

日本鉄鋼協会 小島 彰

申込方法：2月3日までに下記宛て FAXまたはMailにて

〒981-8007 仙台市泉区虹の丘1-13-34 高橋礼二郎(フォーラム座長) FAX：022-373-6799

Mail：takarejiro@yahoo.co.jp

■清水三年坂美術館

〒605-0862 京都市東山区清水寺門前産寧坂北入清水3-337-1
☎075-532-4270

刀の拵

日本刀を保護するための外装である拵は、戦のない平和な江戸時代270年の間に多彩な装飾が施されるようになり、美術品としての価値が高まった。各大名は競い合ってお抱えの刀装金工や蒔絵師たちにより良いものを作らせた。一方、町人たちも江戸後期になると大名を凌ぐ財力を持つ者も現れ、町の刀装金工や蒔絵師たちに大名拵とは違う面白い意匠の拵を作らせるようになった。そ

の結果、彫刻や象嵌、蒔絵の技術が急速に進歩した。また、名刀にはそれに見合った贅を尽くした拵が作られ、持ち主が代われば新たに拵が作られることもあった。

今展では、幕末・明治期に作られた大名拵から町人拵に至るまで、絢爛豪華な名品の数々を展示する。

会期：11月22日(金)～2月16日(日) 月・火曜休館(祝日は開館)

■新見美術館

〒718-0017 岡山県新見市西方361 ☎0867-72-7851

新見美術館の刀剣～赤羽刀を中心に～

会期：12月7日(土)～2月16日(日) 月曜休館

■徳川美術館

〒461-0023 愛知県名古屋市中区徳川町1017 ☎052-935-6262

尾張徳川家の雛まつり

お内裏さまとお雛さま、三人官女に五人囃子―さまざまなお人形や雛道具が飾られる雛祭りは「桃の節供」とも呼ばれ、春の訪れを告げる華やかな行事です。徳川美術館には、尾張徳川家の姫君のためにあつらえられた雛人形や雛道具が伝来しており、いずれも御三家筆頭の名にふさわしい質の高さを誇っています。特に、一つ一つに家紋が入った雛道具は実際の婚礼調度のミニチュアで、その精緻な美しさには目を見張るば

かりです。また、所狭しと人形や雛道具が並べられる明治・大正・昭和の雛壇飾りは、高さ約2メートル、幅7メートルにも及び圧巻です。大名家ならではの、豪華で気品ある雛の世界を紹介します。また、今回は大島家・中村家・高麗屋ほか名古屋の旧家に伝えられた雛人形を特別公開します

会期：2月9日(土)～4月7日(日) 月曜休館。ただし2月11日(月)は開館、翌12日(火)休館)

刀 劍 界

平成26年1月15日発行(隔月刊)

平成26年(2014) 謹賀新年 本年もよろしくお願ひ申し上げます

毎月20日開催

西日本甲冑交換会
出品随時受付中

事務局
〒151-0053
東京都渋谷区代々木4-22-11
TEL 03-5350-8513
日本刀簾谷 篠谷 大輔

飯田 高遠堂

代表取締役 **飯田 慶久**
慶雄

東京都新宿区下落合3-17-33
TEL 03-3395-1133
TEL 03-3395-1133

刀剣古銭・切手・古美術品(売買)
株城南堂古美術店

代表 **田中 勝憲**

東京都目黒区上目黒4-31-10
携帯 090-33208-9612

笹原 俊和

〒869-2612
熊本県阿蘇市一の宮町宮地4375-1
TEL 090-33078-4044

(株)日本刀剣

伊波 賢一

〒105-0001
東京都港区虎ノ門3-18-11
TEL 03-3434-4432
FAX 03-3434-4432

やしま

齋藤 雅稔

東京都西東京市柳沢6-18-10
TEL 042-4463-5310
FAX 042-4463-7955

やしま

齋藤 隆久

東京都西東京市柳沢6-18-10
TEL 042-4463-5310
FAX 042-4463-7955

株式会社 眞玄堂

〒101-0044
東京都千代田区鍛冶町1-7-17
TEL 03-3252-1784
FAX 03-3251-1419

刀剣の店 玉山名史刀

(岡山店) 岡山市北区田町1-1-11
TEL 086-227-4188
(京都店) 京都市東山区西町149-1
TEL 075-708-8210
URL www.touken.com

刀剣市場 野田会 毎月3日・19日開催

株式会社 美術刀剣松本
松本富夫・松本義行

千葉県野田市清水1-99-11
TEL 04-7122-1122
FAX 04-7122-11950
MAIL info@touken-matsumoto.jp
URL <http://www.touken-matsumoto.jp>

拵合せ致します

日本刀輔師 **水野 美行**

〒160-0002 東京都新宿区坂町18
TEL 03-3335-8810

奈良県無形文化財保持者

月山 貞利

〒633-0073
奈良県桜井市大字茅原228-18
TEL 0744-431-7330

株式会社 刀剣柴田

柴田 光隆

〒104-0061 東京都中央区銀座5-6-8
TEL 03-3573-2801
FAX 03-3573-2804
URL <http://www.tokenshibata.co.jp>

もちだ美術

持田 具宏

さいたま市中央区上落合1-9-4
TEL 048-855-4792

丸英美術刀剣店

瀬下明・昌彦

刀剣・小道具
甲冑・高価買入

栃木県小山市乙女3-17-30
TEL 0285-45-0158
FAX 0285-45-8596
URL <http://www.maruhideouken.com>

刀剣ギヤラリー 樹林

森野 幸男

〒803-0812
北九州市小倉北区室町2-2-15
TEL 093-561-0449

美術刀剣 勝武堂

大平岳子・将広

東京都中野区本町4-45-10
TEL/FAX 03-3381-3071
URL <http://www.shoubudou.co.jp>

服部美術店

東京都中央区日本橋3-5-12・2F
TEL 03-3274-5170

株式会社 刀友会

代表取締役 **山本 一郎**

〒033-0123
青森県三沢市堀川17-332
プレインマンションルキア内
TEL 090-3361-9555

赤荻刀剣店

赤荻 稔

茨城県下妻市下妻乙172の5
TEL 0296-441-2643

浅草観音裏

美術・骨董・書画・工芸・刀剣・鑑

(株)晴雅堂清水

〒111-0032 台東区浅草2-30-11
TEL/FAX 03-3842-1377

つるぎの屋

冥賀 亮典
冥賀 吉也

東京都北区西ヶ原4-35-11
TEL 03-3576-1753
FAX 03-3576-8419

刀剣・書画・骨董

株式会社 和敬堂

土肥 豊久
土肥 康久

新潟県長岡市柿町1-2-16
TEL 0258-33-8511
FAX 0258-33-8511
URL <http://www.wakeido.com>

銀座 盛光堂

齋藤 恒

東京都中央区銀座8-11-14 盛光堂ビル
TEL 03-3569-2251(代)
URL <http://www.ginzaseikodo.com>

銀座誠友堂

中央区銀座5-1 銀座フアイト2階
TEL 03-3558-8001
URL <http://www.seiyudo.com>

新堀美術刀剣

新堀孝道・徹・賀将

横浜市旭区さが丘2
TEL 045-364-2893
URL <http://www.10.ocn.ne.jp/~simbori>

大坂刀剣会

吉井 唯夫

〒542-0073
大阪府中央区日本橋2-17-11
TEL 06-6633-1221
FAX 06-6633-1221

甲冑・刀装具 福隆美術工芸

網取 譲一

東京都中央区銀座2-11-4
TEL 03-3541-8209

刀剣研師 白木良彦

〒135-0045
東京都江東区古石場1-2-17
TEL 03-3643-3228

美術刀剣松山

福岡 光男

愛媛県松山市松前町3-3-1
TEL/FAX 089-947-1517

刀剣古美術 優古堂

代表 **三浦 優子**

東松山市高坂7-69-15
TEL 0493-335-5559
URL <http://yukodo.net>

刀剣・刀装具 刀剣武蔵野

大西 敏之

茨城県利根町もえぎ野台3-5-1
TEL 0297-632-2430

生きた研ぎをしたい

刀剣研師 **黒田 守寿**

福岡市博多区東雲町1-4-15
TEL 092-5581-1728

刀剣研師 森井鐵太郎

〒350-1335
埼玉県狭山市柏原3-116-180
TEL 04-2952-6335
MAIL kenshiyama@gmail.com

古美術刀剣 後藤

後藤 一乘

〒462-0059
名古屋市中区駒止町2-33-3
TEL/FAX 052-916-2583

美術刀剣のオンラインショップ「刀の蔵」

代表者 **佐藤 均**

〒710-1101
岡山県倉敷市茶屋町173
TEL 086-963-4111
MAIL ykimura@helen.ocn.ne.jp
URL <http://katanokura.jp>

刀剣・刀装具 武器 イー・ソード

代表 **平子 誠之**

〒350-1115
埼玉県川越市野田町1-4-19 1階
TEL 049-246-6622
FAX 049-246-1140
URL <http://www.e-sword.jp>

刀剣・小道具・鑑 刀剣杉田

代表 **杉田 侑司**

豊島区池袋2-49-5
TEL 03-3980-1146
FAX 03-3980-1146

刀剣の委託販売の専門店 木村美術刀剣店

木村 義治

群馬県高崎市萩原町484-10
TEL 027-352-1159
FAX 027-352-1159
MAIL ykimura@helen.ocn.ne.jp
URL <http://www.kimuradouken.com>

虹雅堂美術舗

笠原 泰明

〒142-0063 品川区荏原2-17-13
TEL/FAX 03-3781-6582

札幌 横山美術

横山 忠司

北海道札幌市中央区南3条東1-6
TEL 011-251-7652
FAX 011-251-1788

日本美術刀剣研磨

無鑑査 研師 **墨 賢藏**

東京都練馬区北2-7-15
TEL 03-3928-0062
携帯 090-4737-2715

刀剣研磨

研師 **平井 隆守**

岐阜県関市清水町43
TEL/FAX 0575-251-0928
URL <http://www.hidion.ne.jp/~katanaka>
MAIL okakana@hidion.ne.jp

お花茶屋の柄巻師

御柄前司 龍翠
捲仙 **飯山 隆司**

東京都葛飾区お花茶屋3-10-8・205
MAIL kenshiyama@gmail.com

武州八王子刀剣会

刀剣研磨工房 和洋骨董

朱華堂 滝沢新一

〒193-0931
東京都八王子市台町1-26-17
TEL 042-628-1293
FAX 042-628-1293

印刷 / 株式会社日刊企画